

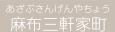
麻布地区旧町名由来板





明治2年(1869)、渋谷長谷寺門前、渋谷掃除町、麻布裏三軒家町、麻布桜田町飛地 を併せて麻布笄町というようになり、明治5年(1872)、近隣の武家地を合併しまし た。町名は町の近くにあった笄橋に由来します。笄橋の由来は、「江戸砂子」の伝え るところでは、天慶の乱(939)のとき、竜川にさしかかった源経基を、前司広雄と いうものが関所を設け聞んでいました。経基は、この時帯びていた刀の笄を証拠に 与えて通過しました。後に、この橋を笄橋と呼ぶようになりました。しかし、今はそ の川も橋も既にありません。

こうがいの語源については、国府方(村名、「南向茶話」)、小貝(郷名)又は後悔(以 たらきを ひともと ころがい ころがい えきかのこ ころがいが (相屋敷名・「再版江戸 大「紫の一本」)、香貝(村名)鵠居(以上「江戸鹿子」)、甲賀伊賀(組屋敷名・「再版江戸 砂子」)等の諸説があります。



むかし、麻布村のうちで、村方の頃は家数が三軒だけでした。しだいに家数は増 えましたが、三軒家町というようになったと伝えられています。 何軒家という地名は、とくに関東に多くあります。



治承年間(1177~1181)、源頼朝が奥州征伐の際、鎮守の霞山稲荷に神領を寄進し、 神領の印に田の畝(作物を作るために、長く土を盛り上げた所)に桜を植えました。 その桜がおいおい繁って自然に桜田と呼ばれるようになりました。桜田町はもと もと霞ヶ関(現在の千代田区)にありましたが、寛永元年(1624)、江戸城御用地に なるのに伴い代地を受け移ってきました。

江戸時代には武家地で、町屋はありませんでした。明治5年(1872)、武家地を合 併して麻布霞町としました。町名は隣町にある霞山稲荷(現在の桜田神社)に由来 します。霞山稲荷は桜田町といっしょに霞ヶ関(現在の千代田区)から移ってきま



The town's name derives from the Kōgai-bashi bridge existed near the town in the past. The river and the bridge have already disappeared.

This place was a part of *Azabu-mura* village governed by a chief magistrate and there were three houses only at that time. Thereafter the number of houses gradually increased but the town is said to have been named *Sangenya-chō* ("a town consisting of three houses") after its origin.

During the Jishō era (1177-1180) Minamoto no Yoritomo donated an estate to Kasumiyama'inari-jinja shrine, the village shrine, and planted cherry blossom trees on ridges in a field as a token of the shrine's estate when he went on an expedition to conquer the Fujiwara family which governed the $Osh\bar{u}$ (the present $Toh\bar{o}ku$ district). The trees gradually flourished and the place began to be called Sakurada (literally "a field of cherry blossom trees").

The town's name came from Kasumiyama'inari-jinja shrine (the present Sakurada-jinja shrine) which was located in the neighboring town.



